

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	2020年11月13日
【四半期会計期間】	第13期第3四半期（自 2020年7月1日 至 2020年9月30日）
【会社名】	ラクオリア創薬株式会社
【英訳名】	RaQualia Pharma Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役 谷 直樹
【本店の所在の場所】	愛知県名古屋市中村区名駅南一丁目21番19号
【電話番号】	052-446-6100（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 河田 喜一郎
【最寄りの連絡場所】	愛知県名古屋市中村区名駅南一丁目21番19号
【電話番号】	052-446-6100（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 河田 喜一郎
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第12期 第3四半期 連結累計期間	第13期 第3四半期 連結累計期間	第12期
会計期間	自2019年1月1日 至2019年9月30日	自2020年1月1日 至2020年9月30日	自2019年1月1日 至2019年12月31日
事業収益 (千円)	708,168	573,550	1,702,973
経常利益又は経常損失 () (千円)	527,951	615,256	21,583
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失 () (千円)	531,836	698,652	5,343
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	499,875	703,252	55,151
純資産額 (千円)	3,743,246	3,917,582	4,620,647
総資産額 (千円)	3,896,735	4,130,259	4,836,561
1株当たり当期純利益又は1株当たり四半期純損失 () (円)	25.94	33.35	0.26
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	-	-	0.26
自己資本比率 (%)	95.6	94.6	95.3
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	544,334	95,249	530,848
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	226,245	246,788	216,204
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	375,018	445	695,905
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (千円)	1,859,165	2,310,051	2,200,206

回次	第12期 第3四半期連結 会計期間	第13期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自2019年7月1日 至2019年9月30日	自2020年7月1日 至2020年9月30日
1株当たり四半期純損失 () (円)	10.73	11.42

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 事業収益には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び連結子会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において新たに発生した事業等のリスクは、次のとおりであります。なお、文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19、以下「COVID-19」）に係わるリスク

COVID-19の世界的拡大を受け、医薬品業界においては患者の受診抑制、顧客への訪問自粛等で販売営業活動に支障が出ております。

当社グループの事業活動への影響は、国内出張の自粛、海外渡航の実質的禁止などにより事業開発活動に大きな支障が出たほか、2020年4月の緊急事態宣言により創薬研究を実施する名古屋大学への入構制限など研究活動の継続が困難な状況も発生いたしました。

今後もCOVID-19の推移によっては、国内外の移動制限継続に伴う製薬会社等との開発品の導出交渉や共同研究交渉へ影響が及ぶ可能性があります。また、提携先企業においても、臨床試験の延長や計画変更並びに医薬品の販促活動の停滞等が発生する可能性があります。それらの結果、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第3四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間において、新型コロナウイルス感染症の流行拡大とそれに伴う政府の「緊急事態宣言」発令等が影響し、景気は依然として厳しい状況にあります。欧州を中心にCOVID-19の感染が再拡大、世界景気の回復が遅れるとの懸念も高まっております。

このような環境下において、当第3四半期連結累計期間における当社グループの業績は以下の通りとなりました。

ペット用医薬品につきましては、犬の骨関節炎治療薬GALLIPRANT®（一般名：grapiprant）が、当第3四半期連結会計期間において、米国で売上が順調に回復しつつあるほか、欧州で堅調に推移いたしました。一方、犬の食欲不振症治療薬ENTYCE®（一般名：capromorelin）は、引き続き堅調に推移いたしております。

医薬品候補化合物の導出や共同研究に向けた取り組みにつきましては、COVID-19の影響で、対面での面談の機会が減少し、若干の悪影響を受けましたが、web会議等を利用しつつ事業開発活動を着実に進めてまいりました。胃食道逆流症治療薬tegoprazan（一般名：tegoprazan、以下「tegoprazan」）の開発につきましては、米国において、導出先のHK inno.N Corporation（韓国、以下「HKイノエン社（韓国）」）が第 相臨床試験の開始に向け準備を進めているほか、中国においては、Shandong Luoxin Pharmaceutical Group Co.,Ltd.（中国）が新薬承認申請の準備中です。また、日本においては、当社とHKイノエン社（韓国）との間の開発に向けた協議を行っております。

産学連携につきましては、2020年9月に国立大学法人長崎大学との間で、COVID-19に対する新規治療薬の共同開発を開始いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、事業収益573百万円（前年同四半期比19.0%減）、営業損失600百万円（前年同四半期は、営業損失534百万円）、経常損失615百万円（前年同四半期は、経常損失527百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失698百万円（前年同四半期は、親会社株主に帰属する四半期純損失531百万円）となりました。

なお、事業費用の総額は1,174百万円（前年同四半期比5.5%減）、その主な内訳は事業原価97百万円（前年同四半期比41.2%減）、研究開発費675百万円（前年同四半期比5.7%増）及びその他の販売費及び一般管理費402百万円（前年同四半期比8.2%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産合計は、前連結会計年度末に比べ706百万円減少(14.6%減)し、4,130百万円となりました。これは主に、現金及び預金の減少498百万円、売掛金の減少615百万円、有価証券の増加708百万円及び投資有価証券の減少438百万円によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ3百万円減少(1.5%減)し、212百万円となりました。これは主に、買掛金の増加5百万円、前受金の減少6百万円及び繰延税金負債の減少4百万円によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ703百万円減少(15.2%減)し、3,917百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失698百万円の計上によるものであります。

以上の結果、自己資本比率は94.6%(前連結会計年度末比0.7ポイント減)となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ109百万円増加(5.0%増)し、2,310百万円(前年同四半期は1,859百万円)となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により使用した資金は、前年同四半期に比べ449百万円減少し95百万円(前年同四半期比82.5%減)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純損失612百万円及び減価償却費86百万円を計上したことのほか、売上債権の減少615百万円による資金の獲得によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により獲得した資金は、前年同四半期に比べ20百万円増加し246百万円(前年同四半期比9.1%増)となりました。これは主に、投資有価証券の売却による収入387百万円のほか、有形固定資産の取得による支出84百万円及び投資有価証券の取得による支出106百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により使用した資金は、0百万円(前年同四半期は375百万円の獲得)となりました。これは主に、リース債務の返済による支出0百万円によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した「対処すべき課題」について、以下の追加すべき事項が発生しております。

(追加事項)

新型コロナウイルス感染症への対応

当社グループへのCOVID-19の感染拡大による影響を最小限にするためには、従業員の感染防止に努めるとともに、提携先企業との連携を含めた事業活動の継続が可能となる体制を構築する必要があります。当社グループは、COVID-19の影響が長期化した場合を想定し、あらゆる感染防止策を講じて従業員の健康と安全を守ることを最優先に、創薬研究を中心とした事業活動を継続するとともに、提携先パートナーとの協業を図ってまいります。

また、このようなりスクを踏まえ、当社グループでは十分な手元資金を確保するようにしております。

(5) 研究開発活動

当社グループの研究開発活動における当第3四半期連結累計期間の研究開発費は、675百万円となりました。また、当第3四半期連結累計期間における主な研究開発の概況は、以下のとおりであります。

自社の研究開発及び共同研究

(探索段階)

国立大学法人長崎大学 感染症共同研究拠点/熱帯医学研究所の安田二郎教授・櫻井康晃助教と、COVID-19に対する新規治療薬の創出を目指して共同研究を開始しました。

当第3四半期連結累計期間においては、上記以外について重要な変更はありません。

導出先の開発状況

tegoprazan (韓国登録商標K-CAB®、開発コード：RQ-00000004/IN-12420)

韓国で既に胃食道逆流症等の治療薬として承認・販売されている本化合物について、HKイノエン社(韓国)は、米国食品医薬品局(FDA)に新薬臨床試験開始届(IND)を提出し、2020年6月に試験実施の承諾を得ました。同社は臨床試験の実施に向けた準備を進めております。

当第3四半期連結累計期間においては、上記以外について重要な変更はありません。

(6) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループは、事業活動のための適切な水準の流動性の維持及び市場から理解を得られる株主価値向上に根ざした明確なEquity storyを持った資金調達戦略の提示と実行を基本方針としております。

資本の財源につきましては、医薬品の上市品目が増えたことにより、長期的かつ安定的なロイヤルティ収入が主要な財源となってきております。

当第3四半期連結会計期間末における自己資本比率は94.6%と健全な財政状態であると認識しております。また、流動比率は1,498.6%と十分な資金の流動性を維持できているものと認識しております。

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フローの分析については、「第2 事業の状況 2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (3) キャッシュ・フローの状況」をご参照ください。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	37,068,800
計	37,068,800

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (2020年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2020年11月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	20,950,642	20,950,642	東京証券取引所 JASDAQ (グロース)	単元株式数100株
計	20,950,642	20,950,642		

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2020年7月1日～ 2020年9月30日	-	20,950,642	-	2,255,096	-	2,444,879

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期連結会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2020年6月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2020年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 20,942,500	209,425	-
単元未満株式	普通株式 8,142	-	-
発行済株式総数	20,950,642	-	-
総株主の議決権	-	209,425	-

(注) 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己株式50株が含まれております。

【自己株式等】

2020年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

(注) 当社は、単元未満自己株式50株を保有しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2020年1月1日から2020年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,174,200	1,676,143
売掛金	747,267	131,857
有価証券	26,006	734,139
貯蔵品	5,500	4,540
前渡金	5,952	23,650
前払費用	69,231	123,038
その他	38,988	70,965
流動資産合計	3,067,147	2,764,335
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	77,528	73,634
工具、器具及び備品(純額)	169,179	212,281
リース資産(純額)	2,173	1,658
有形固定資産合計	248,881	287,574
無形固定資産		
商標権	5,129	5,324
ソフトウェア	26,805	24,938
その他	550	1,145
無形固定資産合計	32,485	31,409
投資その他の資産		
投資有価証券	1,474,270	1,035,691
長期前払費用	2,199	558
その他	11,576	10,690
投資その他の資産合計	1,488,047	1,046,940
固定資産合計	1,769,413	1,365,924
資産合計	4,836,561	4,130,259

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	34,297	40,248
リース債務	741	741
未払金	67,183	71,616
未払費用	50,423	49,566
未払法人税等	20,235	16,509
前受金	6,875	-
預り金	3,318	5,783
流動負債合計	183,074	184,465
固定負債		
リース債務	1,667	1,111
資産除去債務	11,934	12,007
繰延税金負債	19,236	15,092
固定負債合計	32,839	28,211
負債合計	215,914	212,677
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,254,943	2,255,096
資本剰余金	2,444,726	2,444,879
利益剰余金	99,172	797,824
自己株式	21	21
株主資本合計	4,600,476	3,902,128
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,906	3,306
その他の包括利益累計額合計	7,906	3,306
新株予約権	12,265	12,147
純資産合計	4,620,647	3,917,582
負債純資産合計	4,836,561	4,130,259

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
事業収益	708,168	573,550
事業費用		
事業原価	165,415	97,312
研究開発費	638,883	675,005
その他の販売費及び一般管理費	437,907	402,002
事業費用合計	1,242,206	1,174,320
営業損失()	534,037	600,770
営業外収益		
受取利息	6,957	3,428
有価証券利息	26,464	23,092
複合金融商品評価益	6,080	2,250
補助金収入	-	1,500
その他	629	522
営業外収益合計	40,131	30,793
営業外費用		
為替差損	23,583	45,201
株式交付費	10,460	78
その他	1	0
営業外費用合計	34,045	45,279
経常損失()	527,951	615,256
特別利益		
固定資産売却益	-	750
投資有価証券売却益	5,728	8,430
特別利益合計	5,728	9,180
特別損失		
投資有価証券売却損	-	348
投資有価証券償還損	-	5,778
特別損失合計	-	6,127
税金等調整前四半期純損失()	522,223	612,203
法人税、住民税及び事業税	9,828	86,627
法人税等調整額	216	177
法人税等合計	9,612	86,449
四半期純損失()	531,836	698,652
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純損失()	531,836	698,652

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
四半期純損失()	531,836	698,652
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	31,960	4,599
その他の包括利益合計	31,960	4,599
四半期包括利益	499,875	703,252
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	499,875	703,252
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	522,223	612,203
減価償却費	101,937	86,405
受取利息	6,957	3,428
有価証券利息	26,464	23,092
為替差損益(は益)	27,345	40,648
補助金収入	-	1,500
複合金融商品評価損益(は益)	6,080	2,250
株式交付費	10,460	78
固定資産売却損益(は益)	-	750
投資有価証券売却損益(は益)	5,728	8,081
投資有価証券償還損益(は益)	-	5,778
売上債権の増減額(は増加)	59,326	615,409
たな卸資産の増減額(は増加)	9,530	959
仕入債務の増減額(は減少)	3,402	5,950
前渡金の増減額(は増加)	445	17,698
前払費用の増減額(は増加)	60,881	53,806
未払金の増減額(は減少)	38,385	30,030
未収消費税等の増減額(は増加)	3,029	31,850
その他	31,900	7,598
小計	563,116	37,058
利息及び配当金の受取額	34,412	30,321
補助金の受取額	-	1,500
法人税等の支払額	15,630	90,013
営業活動によるキャッシュ・フロー	544,334	95,249
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	10,000	-
有形固定資産の取得による支出	62,947	84,387
有形固定資産の売却による収入	-	750
無形固定資産の取得による支出	21,813	4,115
投資有価証券の取得による支出	-	106,933
投資有価証券の売却による収入	301,440	387,515
投資有価証券の償還による収入	-	53,775
その他	433	185
投資活動によるキャッシュ・フロー	226,245	246,788
財務活動によるキャッシュ・フロー		
新株予約権の行使による株式の発行による収入	371,162	110
新株予約権の発行による収入	4,412	-
リース債務の返済による支出	555	555
財務活動によるキャッシュ・フロー	375,018	445
現金及び現金同等物に係る換算差額	27,305	41,248
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	29,624	109,844
現金及び現金同等物の期首残高	1,829,540	2,200,206
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,859,165	2,310,051

【注記事項】

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積りについて)

当社グループでは、固定資産の減損会計等の会計上の見積りについて、連結財務諸表作成時において入手可能な情報に基づき実施しております。新型コロナウイルス感染症拡大による当社グループへの影響は現時点では限定的であり、当連結会計年度の見積りに大きな影響を与えるものではないと判断しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
現金及び預金勘定	1,777,015千円	1,676,143千円
有価証券勘定	82,149	734,139
現金同等物以外の有価証券	-	100,231
現金及び現金同等物	1,859,165	2,310,051

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自2019年1月1日 至2019年9月30日)

1. 配当に関する事項
該当事項はありません。
2. 株主資本の金額の著しい変動
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自2020年1月1日 至2020年9月30日)

1. 配当に関する事項
該当事項はありません。
2. 株主資本の金額の著しい変動
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自2019年1月1日 至2019年9月30日)

当社グループは、「医薬品の研究開発」並びにこれらに関連する事業内容を行っており、事業区分が単一セグメントのため、記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自2020年1月1日 至2020年9月30日)

当社グループは、「医薬品の研究開発」並びにこれらに関連する事業内容を行っており、事業区分が単一セグメントのため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
1株当たり四半期純損失 ()	25円94銭	33円35銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失 () (千円)	531,836	698,652
普通株主に帰属しない金額 (千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 損失 () (千円)	531,836	698,652
普通株式の期中平均株式数 (株)	20,504,524	20,950,500
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株 当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株 式で、前連結会計年度末から重要な変動があった ものの概要		

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年11月13日

ラクオリア創薬株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 大録 宏行
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 都 成哲
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているラクオリア創薬株式会社の2020年1月1日から2020年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2020年1月1日から2020年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ラクオリア創薬株式会社及び連結子会社の2020年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。